

会議等名	平成 30 年度 第 2 回海老名市子ども・子育て会議
日 時	平成 30 年 10 月 24 日（水） 10：00～11：45
場 所	えびなこどもセンター 201 会議室
出席者	委 員：鍛冶 邦彦 委員長、梅崎 玲子 副委員長、山田 由美子 委員、木村 伸之 委員、柳瀬 路子 委員、亀澤 ますみ 委員、難波 光子 委員、亀谷 香 委員、畔上 由紀 委員、渡部 理子 委員（欠席；篠原 俊正 委員、櫻井 篤 委員、小島 良之 委員、櫻井 慶一郎委員、白倉 博子 委員） 事務局：保健福祉部次長（子育て担当）小澤 孝夫、参事兼こども育成課長 告原 幸治、こども政策係主査 尾内 速斗、主任主事 林 健太、保育・幼稚園課長 安齊 浩史 傍聴者：0 名
1 開 会 2 議 題 【報告事項】公立保育園のあり方の策定について ① 審議内容 別紙資料 5 に基づき事務局から説明した。 ② 質疑応答 （委 員）廃園した園はその後どうするのか。 （事務局）どのように活用するのかは、今後の課題である。 【審議事項】第 2 期 海老名市子ども・子育て支援事業計画の概要とスケジュールについて ① 審議内容 別紙資料 1 ～ 4 に基づき事務局から説明した。 ② 質疑応答 （委 員）資料 4 の「ステップ 3」までは現委員で審議するということによろしいか。 （事務局）ご提示したスケジュールは、あくまで予定であるため、多少変わる可能性はある。現委員にてニーズ調査の項目設定や評価、第 2 期計画に位置づける政策・施策についてもご審議いただくものと考えている。施策を支える事業についても、ある程度は来夏までに現委員にて行っていた	

きたいと考えている。委員皆様のご事情もあるかと思うので、来年8月以降の体制については、しっかりと調整した上で、お示ししていく。また、団体推薦の委員におかれましては、可能な限り、委嘱期間内の委員変更はしないでいただきたいと事務局は考えている。しかし、団体のご事情もあるかと思うので、調整していきたいと考えている。

(委員) 実際に参加した NP 講座が非常に良いものであったので、施策の中に取り込んでいただきたい。

(事務局) 以前から評価いただいている事業だと認識している。定員数を絞ることで参加者の理解度を深めることが実現できている面もあるが、回数を増やせるものがあるか担当課に検討してもらうよう伝える。施策を支える事業には載ってくるものだと考えている。

(委員) 就学後に学童保育に行きたいと希望している幼稚園児の親が多い状況であるが、海老名市の学童施設はすべて民設であり、規模も小規模である。保育園は親の勤務状況などから、必ずしも自宅の近くではないが、学校は自宅の近くである児童がほとんどで、そこからどのくらい学童に行くのなかなか掴めない。地区によって学童施設が足りない地区もあるため、しっかりと学童保育を提供できる体制を第2期計画で検討できればと考える。

(事務局) 学童保育の学区別の需要がわかる仕組みについては教育委員会にも伝える。幼稚園児の学童保育の希望増については、幼稚園の一時預かりや夏休み期間の預かりなどを利用して、幼稚園の保護者の中にも働かれている方も非常に多くなっているため、そういったところが原因であると考えられる。今後も所管課にて検討を進めていく。

(委員) 小学生になり、ランドセルを背負ってから肩を痛めるこどもがいる。自分が小さかったころ、ランドセルではなくナップサックであった。ランドセルに比べ、軽いし費用も少ないので、他市で事例がないかもしれないが、海老名市では検討していただきたい。また、中学生のバッグも実際に測ったら 13kg あった。海老名市の中学校では給食が出ないので、荷物も重くなり、家では偏食のこどもであっても、学校では頑張って食べられるという話や、小学校で偏食がなおったこどもが、中学校でお弁当になったら偏食に戻ってしまったという話も聞く。部活で朝練の時は、炎天下にお弁当を置いていて不衛生。学校で注文するお弁当もあるが、使い勝手が悪いので、給食センターを作って欲しい。

(事務局) ランドセルは軽量化が図られている。中学校の制服が高いという声もあるので、保護者負担が少なくすむような検討もしている。ナップサックの話や委員のお考えは所管課へ伝える。中学校給食は子ども・子育て支

援事業計画から外れる内容であるが、給食を希望する声は教育委員会でも承知しており、実験的ではあるが主食費の提供などもしている。本会議でのご意見は所管に伝える。

(委員) 自宅に持って帰らなくてもいいような学用品は、なるべく学校の教室に置いていけないか検討しているが、状況は学校によって様々で、空き教室がない学校では難しい。また、置いていける学用品の選別も大変難しいと考えている。

(委員) 昔は1クラス55人いたが今はどれくらいいるのか。

(委員) 3年生以上は40人学級となっている。

(委員) 教科書がないと宿題ができないので、一部の学童施設では、使わなくなった教科書を卒業生から提供してもらい、児童へ貸しているところもある。宿題の出し方を変えると教科書を持ち帰る必要がなくなるかもしれない。

(委員) 府中市の子育て講座は、募集期間の初日に満員なることが多いと聞いたことがある。それに比べて、海老名市が主催する講座では、定員割れしているものがあり、もったいないと感じる。府中市の広報紙と比べても情報量など似通っていたので広報が原因ではないと感じた。掲載する媒体を増やすとか申し込み方法を工夫する必要がある。先着順のものはキャンセル待ちをできるようにしたり、当日枠を設けるなど、定員割れをしないようにできないか。

(事務局) 広報紙はリニューアルし、一定の評価はいただいているものと感じている。定員割れをするものは原因を追究する必要があると感じている。

(委員) 告知の内容と時間・場所を工夫することを考える必要がある。例えば、講座に出席したら民間企業が有給扱いしてくれるような世の中の風潮になれば状況は変わるし、ターゲットになる人物が一番参加しやすい状況はなんなのかを考える必要がある。

(委員) 基本目標2に父親の内容が抜けていると感じた。欧米に比べて日本の男性の育児参加率は低いので、第2期計画には男性の育児をサポートするような事業を検討していただきたい。

(事務局) 第2期計画にどのように取り込んで行くかは今後検討していきたい。

(委員) 紙オムツ支給事業は評判の良いものであるが、終わってしまうこともあるのか。

(事務局) 随時見直しが必要な事業であると感じている。事業開始から来年度で5年目を迎えるので、様々な方法を検討し、子ども・子育て会議にてご審議いただきたい。

(委 員) 学童の支援員は教員との連携はあるが、幼稚園教諭や保育士との連携ができていないので交流の場が必要であると感じる。また、教員の研修会に支援員を誘っていただけるのはありがたいが、夏休み期間に開催されるものが多く、学童は夏休みが非常に忙しいため、参加したくても参加できない状況である。開催期間の検討をしていただきたい。

(事務局) 幼稚園・保育園と学童保育の連携については検討させていただく。研修時期については所管課に伝える。

(委 員) 横浜市では出生後助産院として訪問型母乳相談を実施している。綾瀬市では、1～2歳児を対象にNP 講座みたいなものを20名ほど集めて1年かけて実施している。

(事務局) 海老名市では新生児訪問として出産後間もない世帯に対して助産師が1回訪問している。産後ケア事業については、今後研究していく考えである。

(委 員) 基本目標1の中で、「民間企業による働き方改革の推進」という言葉があるが、本計画は民間企業の話ではないかと思われる。また、前後の段落で文章が繋がらないと感じる。基本目標4の施策にある「外国人世帯への支援の充実」については、今後、外国人の就業者数は増えていくことが考えられるため、この視点が第2期計画に入っていることは大事だと思う。ニーズ調査の中でどのように把握しようと考えているのか。

(事務局) 基本目標1については整理させていただく。外国人世帯への支援の調査はこれから考えていく。ニーズ調査のアンケート内容については、コンサルにも要望していく。

(委 員) 基本目標3の施策にある「子どもが地域交流できる居場所の確保」の対象はどこまでなのか。

(事務局) 乳幼児や小学生であると考えている。

③ 審議結果

審議事項について、了承を得られた。

4 閉 会

以 上